

3.4 議事録

3.4.1 議事要旨

モニタリング部会の議事内容を議事要旨としてとりまとめた。

第2回 夕張シューパーロダムモニタリング部会議事要旨

1. 審議の内容

平成26年2月19日(水)に開催した第2回夕張シューパーロダムモニタリング部会において、以下の内容について審議を行った。

- (1) 夕張シューパーロダムの進捗状況について
- (2) 平成25年度 現地調査の実施状況について
- (3) 平成26年度 モニタリング調査計画(案)について



図 3.4-1 部会開催状況

2. 審議の結果

- (1) 夕張シューパーロダムの進捗状況について
 - ・新しいダムにより減水区間が変わるのか。(眞山委員)
→減水区間は変わらない。
- (2) 平成25年度 現地調査の実施状況について
 - ・水温観測は月に1度の頻度のようなが、観測時間帯によってバラツキが出ると考えられる。そのあたりの整合性はどうしているのか。(岡村委員)
→多少のズレはあるかもしれないが、調査時間も記録しているので確認する。
 - ・ベルトトランセクト調査において、サーチャージ水位で水没する部分についても確認しておくのがよい。(岡村委員)
 - ・ドジョウについて、重要種と外来種双方の表記となっているが、この意味は何か。(岡村委員)
→環境省では重要種扱いだが、北海道で見れば国内移入種として外来種扱いとなる。
→当該地点においては、外来種扱いが妥当かもしれない。(眞山委員)
 - ・今年度は水位低下による欠測が多いが、渇水であったのか。(泉委員長)
→今年度は、夏場の降雨が少なく、秋から降雨が多い年であった。

- ・景観において「視点場」という言葉が反映されたのはよいが、「シークエンス景観(走行する車両からの景観)」という言葉も盛り込むべきである。(中井委員)
- ・保全対策としてザリガニの移植をしているが、水中移動する生物まで移植する必要があるのか。(岡村委員)
 - 人工湖で濁りが発生する場合には対応できないものもいる。適正な沢が限定されることから、ある程度移植はしておいた方がよい。(眞山委員)
- ・道内ではネズミ類が昨年、一昨年と大発生している。当該地点はその影響でまだ多いようだが、特異的な状況であるため、継続確認しておけばよい。(柳川委員)

(3) 平成 26 年度 モニタリング調査計画(案)について

- ・モニタリングが5年後を目処に終わり、河川水辺の国勢調査によるフォローアップへ移行した際、プランクトン調査がこのモニタリングでは抜けているのではないか。(眞山委員)
 - 植物プランクトン調査については水質調査の一環で実施している。動物プランクトン調査については貴重なご意見として伺い、実施可否を検討する。
- ・湛水試験が始まり、例えば外来種の侵入が大きな問題となってきた場合、何か対策を講じるのか。年1回の報告では手遅れになることもあるのではないか。(岡村委員)
 - 問題が顕在化してきた場合には、適宜ご相談させて頂きたいと考えている。
- ・堆砂の状況把握は管理に移行してからとの説明だったが、平成30年までは調査しないと言うことか。(泉委員長)
 - モニタリング調査期間は平成30年度までだが、ダム管理は平成27年度以降から開始するため堆砂状況も確認する。また、湛水前の測量も実施している。

以上